

## 2009年に山口県で発生した豪雨災害と過去の森林破壊の影響

### Effect of the past deforestation on the rainfall induced landslide hazard in July 2009 in Yamaguchi Prefecture

大丸 裕武<sup>1\*</sup>

Hiromu Daimaru<sup>1\*</sup>

<sup>1</sup>独立行政法人森林総合研究所

<sup>1</sup>FFPRI

2009年7月21日の豪雨によって山口市と防府市で発生した崩壊発生斜面の特徴を解析するとともに、米軍撮影の空中写真を用いて過去の植生条件について考察した。今回発生した崩壊地は、崩壊深が小さい板状型崩壊、崩壊深が大きい貝殻型崩壊と、谷筋の流水による侵食で発生したガリー侵食型崩壊に区分することが出来た。1947年に米軍によって撮影された空中写真によると、防府市北西部の山地稜線部ではハゲ山に由来すると思われる裸地が広く分布している。防府市の周辺ではハゲ山が形成された斜面の近くの谷筋から、貝殻型崩壊やガリー侵食型の崩壊が発生している事例が多く見られた。防府市真尾で発生した崩壊地の断面には、基盤の花崗岩の上に多量の炭片を含む青灰色から白色の砂や泥の層が見られ、その上に風化花崗岩（マサ土）由来の谷埋め土が堆積していた。炭片の放射性炭素年代は、Cal AD 1440 - 1470 (1 $\sigma$ ; Beta-271145)であった。中国地方の瀬戸内側においては、近世以降の人為影響によってハゲ山が広く発生したと考えられていることから、マサ土由来の谷埋めの砂層はハゲ山発生時に斜面からもたらされた可能性が高い。一方、米軍写真においてハゲ山の分布密度が比較的低い山口市周辺の山地では、尾根部の花崗岩風化殻から発生するタイプの崩壊が多く見られる。これらのことから、2009年7月の豪雨によってに山口市と防府市周辺で発生した崩壊の形態には、過去のハゲ山化に伴う地形変化が強く影響していると考えられる。

キーワード:豪雨,崩壊,ハゲ山,土砂災害

Keywords: rain storm, landslide, hageyama, sediment disaster